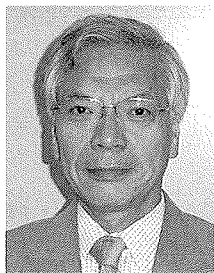


： 卷 頭 言 ：

「食料の未来を描く戦略会議」からのメッセージ

(財) 日本植物調節剤研究協会 理事
住友化学(株) アグロ事業部長

野口 等



今夏は北京オリンピックが開催され、多くの日本人選手が活躍し、スポーツ鑑賞にも熱が入った。ただしシーズン中は暑く、もっぱらテレビ観戦に専念することとなったが。

中国と言えば中国産冷凍餃子の食中毒事件があった。食に関することとしては、それ以外にも穀物価格の高騰が問題となっている。人口増加、地球温暖化など気象変動による不作、バイオエタノール生産の増大等により今後も食料供給事情が厳しくなる可能性があり、食に関する課題が注目されている。

農林水産省のホームページには、農林水産大臣主催で各分野の識者が「食料の未来を描く戦略会議」に出席し、議論した内容が掲載されている。平成20年5月7日に開催された第5回会合では食料の未来を確かなものにするために関係者が取り組むべき事項が国民へのメッセージとして取りまとめられている。

その中で、主に我々農産物生産関係者に関連するものとしては、

- ①国内の農業資源の有効活用
 - ②消費者の国産ニーズに応える努力
- が項目として取りあげられている。

耕作放棄地面積は年々増加しており、平成17年では38万haに達している。また、65歳以上の割合も平成17年では58%となっており、後継者不足である。

こうした中で、農業を活性化していくためには農業が若者も関心を持てる利益のあがる産業でなければならない。また、農家の規模拡大とその効率的運営による国際競争力の強化が重要である。

その為には、しっかりした農業技術、高い意欲、優れた経営感覚を有した担い手や新規参入者の育成を考えた農業政策が求められる。

一方、消費者は、安全性や新鮮さ、美味しさの点で「国産」の農産物を求めていることが農林水産省調査結果に示されている。また、食品製造・流通関係者は価格も含めた安定供給を国産品に求めている。高い安全性と優れた品質の確保という点では、適正使用の徹底・確認、農業技術(栽培技術、品種改良等)の開発・普及が重要となり、食品製造・流通への安定供給ということでは経営規模、優れた農業経営手法、食品産業と生産者の連携強化も必要となる。

今後このように新しい農業経営の時代となっていくと考えられることから、生産者を支援する側も優れた製品を供給するだけでなく、農業技術や農業経営手法等についても支援することが必要である。

弊社ではグループ企業の総合力を発揮して、農薬、肥料、農業用資材、種子など各種製品のほか、有用な情報(農業経営支援システムなど)・サービスも提供して農家を全面的に支援することを目指しており、またユーザーからの質問、要望にきめ細かく対応するためお客様相談室を開設している。

「食料の未来を描く戦略会議」では上記以外にも多様な観点から課題、メッセージが提案されており、資料もわかり易くできていることから、是非皆様にも御一読いただき、御議論をして頂いてはいかがでしょうか。